しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会　ニュースレター

第 157 号（2023 年 2 月号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

ここ数年、体力の衰えを感じ、プールに行ったり、走ったり、ジムに通ったりしました。でもなかなか続かなかったのです。そんな中、今年からバトミントンを始めました。と言ってもまだ 2 回だけですが。一回目、ダブルスで 5 分打ち合っただけでもう限界。足も手ももつれて、全く使いものになりませんでした。終わる頃には全身が悲鳴を上げ、すでに筋肉痛。4 日間ぐらい引きずりました。でも良い汗をかいて、心はリフレッシュできたのです。せめて 1 年は続きますように笑

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。　(2023. 02. 01)

時間を共有する

新型コロナウイルスが発生してから丸三年。正直、ここまで長引くとは考えてもみませんでした。この間に、マスクが顔の一部となり、至るところに消毒液が置かれ、人との物理的・精神的距離が遠くなりました。しかも人前でマスクを外すのが恥ずかしいと言う人までいると聞いて、ビックリ。

それ以上にビックリしたのはインフルエンザが再流行していることです。ここ三年、ほとんど発症している人がいなかったのに、どこに潜んでいたのでしょう。そして、この流行にいち早く乗ったのは、他でもなく私です。二週間前に胃腸炎で苦しんだ身体には、かなり堪えました。

このように身体が弱ると、心も弱るのです。急に不安になったり、気力を失ったり、元気なときには全く気にならなかったことで悩んだりします。そんな弱い自分を受け入れるのには、勇気が必要です。

一方で、そんなに強がらなくても良いのかな～とも思ったりするのです。弱さも含めて、本来の自分だからです。そのように考えて肩の力を少し抜くと、ホッとして心が落ち着き、前向きに物事を考えることができるようになったのです。

それにしても新型コロナウイルスがまん延し始めてから社会に不安が広がったような気がするのです。人と実際に会う機会が減り、より一層孤独を感じる人が多くなったと言われています。“人は一人では生きていけない”にも関わらず、一人で頑張って生きなければならないような雰囲気があるのです。

先日、朝日新聞の「わたしのよりどころ」という特集の中で、霊長類学者の山際寿一さんは、社会が不安だらけで、孤立感が深まっている理由を次のように述べておられました。

社会が不安だらけになっているのはなぜか。「時間の使い方」に答えがあると考えています。

人類は「自然の時間」の中で過ごしてきました。自由に動き、集まり、自分と違うものと対話をすることで、違う視点を得て、自分や社会の未来を作ってきたのです。

ところが産業革命以後、時間を管理して、効率的に使う思想が生まれます。人々は「工業的な時間」に駆り立てられるようになりました。

問題は、人と付き合うことを忘れていることです。1980 年代、「自己実現」と「自己責任」という言葉が流行し、人々は人に頼ることをやめてしまいました。・・・

現代でも、自然な時間は残っています。例えば赤ちゃんを育てる親の時間や高齢者の時間、障害者の時間です。

「生産的な時間」の中にいる人は、自分の時間を手放し、自然な時間に入ると、ほっとして幸せを感じます。僕にとってはゴリラと過ごす時間です。

現代社会は、多くの人が職場と家の往復で、生産的な時間を離れて交流する機会は少ない。手をさしのべて、一緒に何かをする。それにより共有する時間がうまれる。「頼る」「迷惑をかける」「弱みをみせる」生産的ではない時間を共有できる契機を相手に作ってあげることが大切です。

【朝日新聞 2023.1.6「ともしび わたしのよりどころ」より】

山際さんが言われているように、私たちは「生産的な時間」に縛られています。効率ばかりを求め、「自然の時間」、人々と時間を共有することが少なくなっているのです。確かに、自分で何でも行った方が、無駄は少ないないかもしれません。人と時間を共有することで、思いがけないことが起こったり、何倍も時間がかかることがあるからです。ですから私たちは自分の時間をなかなか手放せません。

それだけでなく相手の時間さえも無駄にしてもいけないと思っているのです。“こんなことを頼んだら迷惑かもしれない”“自分の弱さを見せたら、相手の重荷になってしまうのではないか”そんな考えが私たちの心の中にあって、素直に「助けて欲しい」と言えません。

父が病気をしてから、父と過ごす時間が多くなりました。「生産的な時間」の中にいた私にとって、これは大きなストレスでした。計画通りにいきませんし、予想外のことが起こるからです。

もう一つ私にとってのストレスは、父のことで色々な人に迷惑をかけているのではないかということでした。デイサービスから父のことで電話がかかってくる度に、申し訳ない気持ちになったのです。そんな私の気持ちを知ってか知らずかデイサービスの方がある時、「迷惑をかけているなんて思わないでください。お父さんが快適に過ごせるように何でもしますので」と電話越しにお話しくださいました。この瞬間、「あ～迷惑をかけても良いのだ。非効率なことを引き受けてくださる方がいる」とほっとしたことです。それから少しだけ父との時間に余裕を持つことができるようになりました。

ところで人として誰よりも「自然な時間」の中を過ごされたのは、神の子であるイエス様でしょう。イエス様は効率など求めず、迷惑、病気、問題を進んで引き受けてくださいました。救い・癒しを求め、ご自分のところに来る人たちのために、ご自分の時間をほとんど手放されたのです。このように彼らに手を差し伸べ、彼らと時間を共有することが、イエス様の喜びであり、幸せであったからです。

今でもイエス様は私たちの迷惑を喜んで引き受けてくださいます。私たちは一人で頑張って生きなくても良いのです。イエス様は弱い私たちがご自分に頼ること、そして愛する私たちと一緒に時間を共有することを心から願っておられるのです。

それゆえ、主はあなたがたに
恵もうと待っておられ、
あなたがたをあわれもうと
立ち上がられる。

- 礼　　拝　　毎週日曜日 10：30～12：00
- 祈 祷 会　　毎週金曜日 10：30～12：00
- イズミン・キッズ　毎週日曜日　9：30～10：20
- おやこ de えほん　毎週水曜日 10：30～13：30
- 韓 国 語 教 室　毎週火曜日 10：30～11：30
- Friendly English(子ども英会話教室)　毎週火曜日 16：00～18：10